

証券コード

3377

# 2017年11月期 第3四半期 決算説明資料

2016.12.1 - 2017.8.31

---

株式会社 バイク王 & カンパニー

バイクのことなら

**BIKE 王**

1. 2017年11月期 第3四半期(累計) 業績概況 P. 2
2. 2017年11月期 第3四半期(累計) セグメント別 業績概況 P. 7
3. 2017年11月期 第3四半期の取り組みと進捗 P. 11
4. 2017年11月期 第3四半期 財政状態 P. 23
5. 2017年11月期 通期見通し / 配当 P. 26
6. (ご参考)中期経営計画 / 会社概要等 P. 29

(注)原則として表示金額については、百万円未満切捨てで表示しております。

# 2017年11月期 第3四半期(累計) 業績概況

2016年11月期  
3Q(累計)

2017年11月期  
3Q(累計)

売上高

12,720百万円  13,140百万円

販売費及び  
一般管理費

6,074百万円  6,002百万円

経常損失

▲377百万円  ▲145百万円

# 損益計算書

(単位:百万円)

|                | 2016年11月期<br>3Q(累計) | 2017年11月期<br>3Q(累計) | 増減額  | 増減率    |
|----------------|---------------------|---------------------|------|--------|
| 売上高            | 12,720              | 13,140              | 420  | 3.3%   |
| 売上原価           | 7,107               | 7,425               | 317  | 4.5%   |
| 売上総利益          | 5,613               | 5,715               | 102  | 1.8%   |
| 販売費及び<br>一般管理費 | 6,074               | 6,002               | ▲ 72 | ▲ 1.2% |
| 営業損失           | ▲ 461               | ▲ 286               | 174  | —      |
| 経常損失           | ▲ 377               | ▲ 145               | 232  | —      |
| 四半期純損失         | ▲ 533               | ▲ 201               | 332  | —      |

# 四半期毎の売上高 / 経常利益

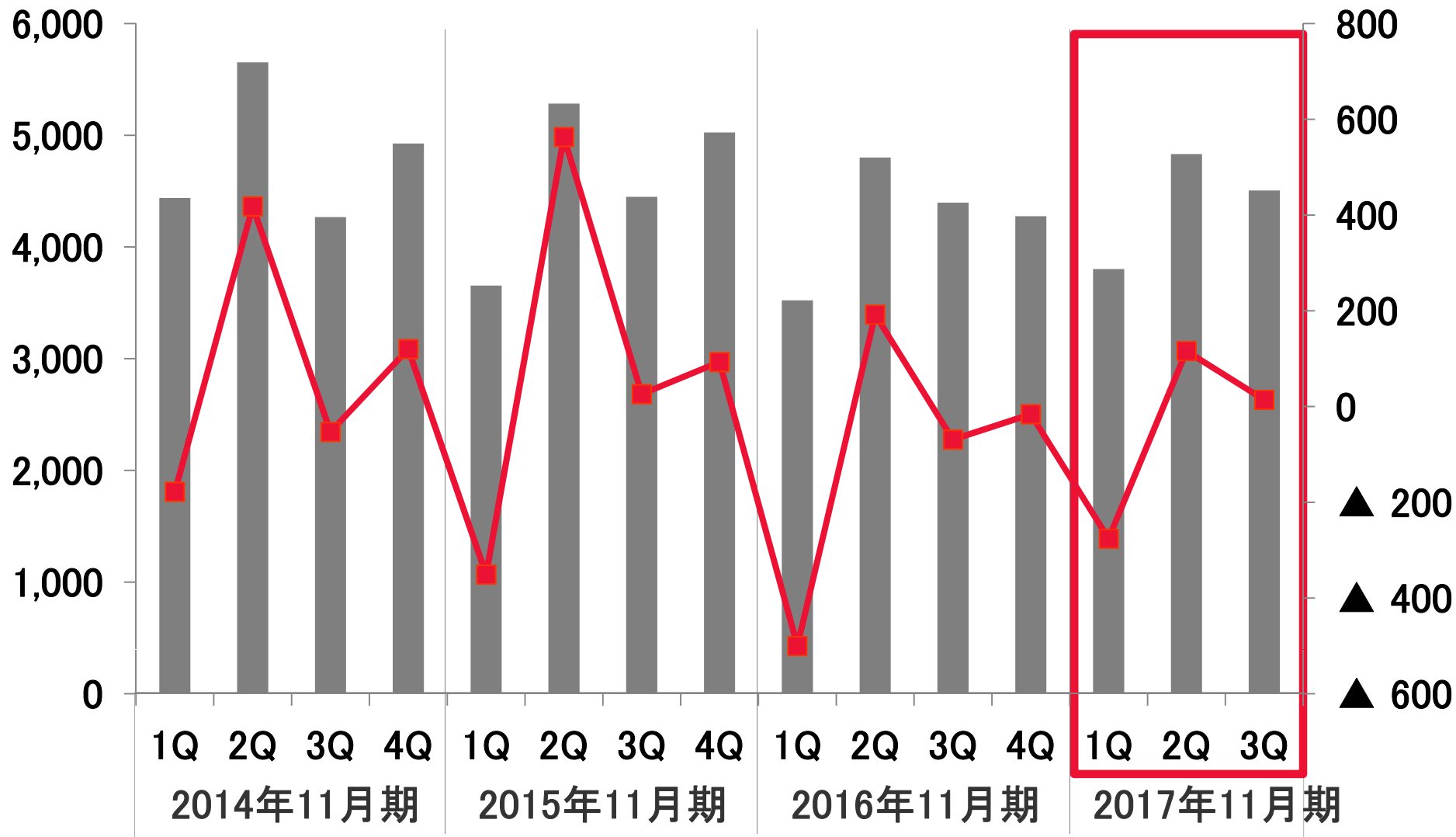


(単位:百万円)

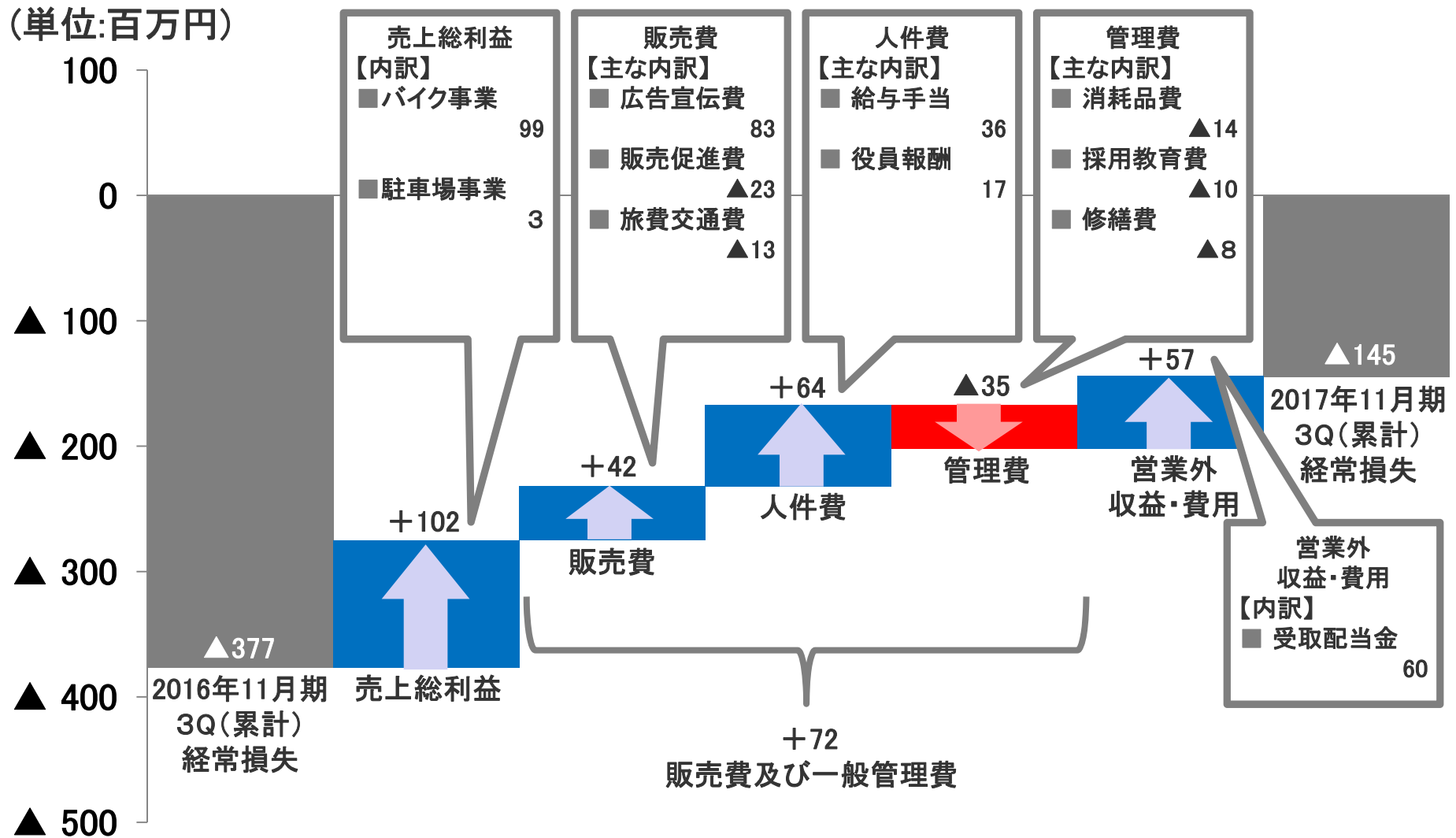
■売上高

■経常利益

(単位:百万円)



# 経常利益増減要因分析



(注)販売管理費の+(プラス)および▲(マイナス)は、利益に対する増減を意味しております。

# 2017年11月期 第3四半期(累計) セグメント別 業績概況



## バイク 事業

売上高 : 12,607 百万円 (前年同期比3.8%増)

経常損失 : ▲166 百万円 (前年同期は▲388百万円)

売上高は、販売台数が前年同期を下回ったものの、平均売上単価(一台当たりの売上高)が前年同期を上回ったことにより増加

経常損失は、平均粗利額(一台当たりの粗利額)が前年同期を上回ったことに加え、販売費及び一般管理費の抑制および営業外収益が前年同期を上回ったことにより改善

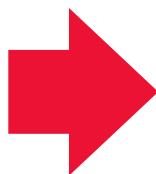
### 【平均売上単価・平均粗利額の増加要因】

主に受付時のオペレーション対応等を見直し、高収益車輛の仕入を強化したことによる

従来の三区分から、バイク買取事業とバイク小売事業を「**バイク事業**」に統合し二区分に変更

【2016年11月期】

1. **バイク買取事業**
2. **バイク小売事業**
3. 駐車場事業



【2017年11月期】

1. **バイク事業**
2. **駐車場事業**

【変更理由】

- ビジョンの実現に向け、従来の「バイク買取事業」と「バイク小売事業」の融合に取り組み、組織を再構築
- 既存の買取店舗において小売販売を開始

以上を踏まえ、より取引実態に即したものとする

## 駐車場 事業

売上高 : 533 百万円 (前年同期比▲7.9%減)

経常利益 : 21 百万円 (前年同期比95.7%増)

売上高は、既存事業地の収益力向上と採算性を重視した事業地開発を推進したものの、不採算事業地の閉鎖等により減少

経常利益は、既存事業地における収益力向上が奏功したことにより増加

# 2017年11月期 第3四半期の取り組みと進捗

現状を踏まえ、ビジョンの実現に向けた取り組み

①小売販売台数の増加

②仕入台数の増加

成長軌道に乗せる

小売販売チャネルの拡充

仕入業務オペレーションの見直し

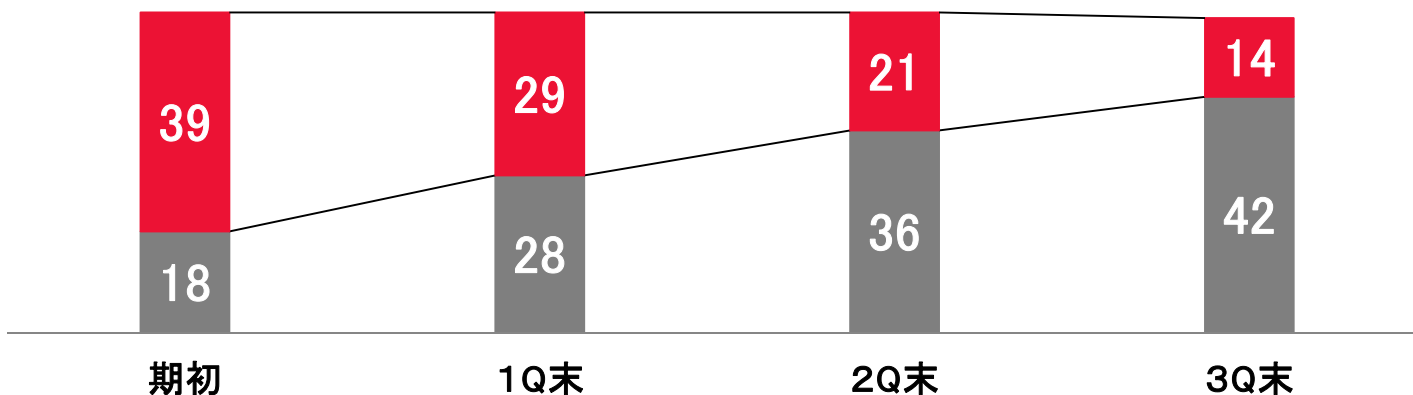
人財採用・育成の強化

# 小売販売チャネルの拡充



既存の買取店舗ならびにバイク用品店との協業による小売販売を開始  
 小売販売実施店舗は、期初から24店舗増加し42店舗（当社店舗数全56店舗）  
 また、新たな販売窓口として「バイク王 バイクコンシェルジュ」の受付窓口を設置

■ 買取店舗                      ■ 小売販売実施店舗



## 3Qの小売販売実施店舗

### 【関東エリア】

- 多摩店（東京都多摩市）
- 府中店（東京都国分寺市）
- 葛飾青戸店（東京都葛飾区）
- 青葉店（神奈川県横浜市）

### 【東海エリア】

- 一宮店（愛知県一宮市）

### 【九州・沖縄エリア】

- 久留米店（福岡県久留米市）  
※複合商業施設内

## 3Qのサービス拠点「バイク王 バイクコンシェルジュ」設置店舗

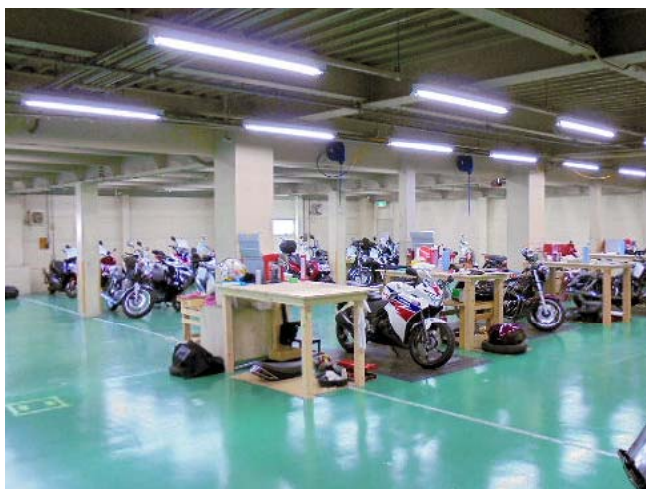
### 【関西エリア】

- バイクワールド土山店（兵庫県加古川市）内に設置
- バイクワールドりんくうシークル店（大阪府泉佐野市）内に設置



## 小売販売チャネルの拡充（整備の強化）

当社初となる小売販売の車両整備に特化した  
「寝屋川物流センター」を開設  
これにより、関西エリアにおける小売販売店舗の整備体制をサポート





## 小売販売チャネルの拡充

バイク用品店との協業等、集客力の向上が見込める店舗を中心に小売販売を開始

集客力の向上が見込めるバイク用品店との協業等

【東海エリア】

- 浜松店(静岡県浜松市)  
※バイク用品店ナップスの店内



## 小売販売チャネルの拡充

新たな店舗形態として物流センターを小売販売店舗に変更し、中古パーツも販売  
バイク選びとパーツ選び、整備や取り付けまで同じ店内で可能

### 物流センターの活用

【関東エリア】

■ 谷和原インター店(茨城県つくばみらい市)



### 既存店舗の活用

【関西エリア】

■ 茨木店(大阪府茨木市)

## 下期重点課題である「仕入台数の増加」の取り組みを強化

### 広告宣伝を戦略的に展開

出張買取サービスの訴求を強化とマス広告の媒体構成を最適化  
新キャンペーンを実施するとともに連動したテレビCMを放映



### ■テレビCM 「必ずもらえる5,000円！ キャンペーン」篇

※放映期間

7月21日～ 8月31日

※キャンペーン期間

お申し込み: 7月21日～8月31日

ご 成 約: 7月21日～9月7日

### 高収益車両の確保

引き続き受付時の対応等を見直し、高収益車両の仕入を強化

お客様からのお申し込み件数が増加し、高収益車両の確保を含め仕入台数は、  
上期から改善が図られたものの、依然として仕入台数が不足

## 販売力の強化

小売販売を開始する店舗の店長に対し研修を実施

小売販売のノウハウ等を学ぶ「販売業務研修」  
実際の業務フロー等を学ぶ「OJT研修」

## マネジメント力の 向上

営業部門の全管理職に対し研修を実施

財務・営業指標を絡めて指導する「営業目標管理研修」

## 採用の強化

買取と小売の業務を遂行できるキャリア採用を推進

## 「バイクワールド伊川谷」店内に神戸店を移転し、名称を神戸伊川谷店に変更

- バイク王とバイクワールドのコラボ展開による相互送客効果で、双方が新たなお客様との接点の拡大を図る
- バイク選びとバイクパーツ・用品選びが同じ空間で可能
- バイクワールドとのコラボ展開は、名古屋みなと店・伊丹店・岡路店・インターパーク宇都宮店・姫路店に次いで6店舗目



## 新たなサービス拠点として「バイク王 バイクコンシェルジュ」の開設

バイク用品店バイクワールドの店内に受付窓口を設置し、バイク販売・買取等の当社サービスを提供

### 【近畿エリア】

- バイクワールド土山店(兵庫県加古川市)内に設置
- バイクワールドりんくうシークル店(大阪府泉佐野市)内に設置

### 【2Qまでの進捗】

- 福岡店、上尾店にてバイク用品販売サービスを開始
- 「バイクワールド姫路今宿」店内に姫路店を移転



受付窓口イメージ  
(バイクワールド土山店内)

# 駐車場事業の会社分割および株式譲渡について

平成18年3月よりバイクの社会的インフラ整備を目的に駐車場運営に関する事業(以下、「本事業」という)を展開してまいりましたが、このたびバイク事業の業績改善に一層注力するため、事業の選択と集中に取り組むことにともない、本事業を譲渡することといたしました。

新設分割により、本事業を新設会社に承継させたのち、新設会社の全株式を名鉄協商株式会社へ譲渡し、円滑に事業を移管いたします。

本会社分割および株式譲渡にともない、当社の平成29年11月期の決算において特別利益の計上が見込まれますが、承継資産等の精査や譲渡価額の調整が必要であり、本日時点で業績への影響は未確定です。今後、業績予想の修正が必要な場合には、速やかに開示いたします。

## 概要

|       |            |
|-------|------------|
| 新設会社  | パーク王株式会社   |
| 対象事業  | 駐車場事業      |
| 株式譲渡先 | 名鉄協商株式会社   |
| 譲渡価額  | 780百万円(予定) |

## スケジュール

|               |                 |
|---------------|-----------------|
| 新設分割承認取締役会決議日 | 平成29年10月3日      |
| 株式譲渡契約締結日     | 平成29年10月3日      |
| 効力発生日         | 平成29年11月30日(予定) |
| 株式譲渡日         | 平成29年11月30日(予定) |

## 株式譲渡先の概要

|           |                                       |
|-----------|---------------------------------------|
| 株式譲渡先     | 名鉄協商株式会社                              |
| 所在地       | 愛知県名古屋市中村区名駅南二丁目14番19号                |
| 代表者の役職・氏名 | 代表取締役 高橋 健治                           |
| 事業内容      | 駐車場事業、モビリティ事業、商品販売事業、<br>店舗・貸ビル事業、その他 |
| 資本金       | 720百万円                                |
| 設立年月日     | 昭和46年2月24日                            |
| 決算期       | 3月31日                                 |
| 大株主及び持株比率 | 名古屋鉄道株式会社 100%                        |
| 当社との関係    | 資本、人的、取引関係ともありません                     |

# 2017年11月期 第3四半期 財政状態



# 貸借対照表(資産の部)



(単位:百万円)

|          | 2016年11月期<br>期末 | 2017年11月期<br>3Q末 | 増減額   |
|----------|-----------------|------------------|-------|
| 流動資産合計   | 3,393           | 3,472            | 78    |
| 現金及び預金   | 1,526           | 1,357            | ▲ 169 |
| 売掛金      | 80              | 65               | ▲ 14  |
| 商品       | 1,525           | 1,833            | 308   |
| その他      | 260             | 215              | ▲ 45  |
| 固定資産合計   | 1,402           | 1,428            | 25    |
| 有形固定資産   | 671             | 682              | 10    |
| 無形固定資産   | 63              | 100              | 36    |
| 投資その他の資産 | 667             | 645              | ▲ 21  |
| 資産合計     | 4,796           | 4,900            | 104   |

## ■流動資産の増加

主に「商品」308百万円増加し、「現金及び預金」169百万円減少、前払費用の減少や未収入金の増加等により「その他」45百万円減少による

## ■固定資産の増加

主にリース資産の増加等により「有形固定資産」10百万円、ソフトウェア等の増加により「無形固定資産」36百万円増加し、敷金の返還等により「投資その他の資産」21百万円減少による

# 貸借対照表(負債・純資産の部)



(単位:百万円)

|               | 2016年11月期<br>期末 | 2017年11月期<br>3Q末 | 増減額           |
|---------------|-----------------|------------------|---------------|
| 流動負債合計        | 974             | 1,317            | 343           |
| 固定負債合計        | 299             | 318              | 18            |
| 負債合計          | 1,273           | 1,635            | 361           |
| 純資産合計         | 3,522           | 3,265            | ▲ 257         |
| 負債純資産合計       | 4,796           | 4,900            | 104           |
| <b>株主資本比率</b> | <b>73.4%</b>    | <b>66.6%</b>     | <b>▲ 6.8%</b> |

## ■ 流動負債の増加

主に未払金211百万円、買掛金49百万円、前受金や未払消費税の増加等によりその他126百万円増加し、賞与引当金24百万円、資産除去債務14百万円減少による

## ■ 固定負債の増加

長期資産除去債務15百万円増加による

## ■ 純資産の減少

利益剰余金257百万円減少(株主配当55百万円、四半期純損失201百万円)による

## ■ 株主資本比率66.6%と引き続き財務の健全性維持

# 2017年11月期 通期見通し / 配当

# 通期業績予想 ※6/29公表から変更なし



(単位:百万円)

|       | 2016年11月期<br>実績 | 2017年11月期<br>今回予想 | 増減額   | 増減率(%) |
|-------|-----------------|-------------------|-------|--------|
| 売上高   | 16,996          | 18,000            | 1,003 | 5.9%   |
| 営業利益  | ▲503            | ▲30               | 473   | —      |
| 経常利益  | ▲394            | 90                | 484   | —      |
| 当期純利益 | ▲586            | 0                 | 586   | —      |

※当社は、期初に公表いたしました2017年11月期通期業績予想を、6/29に修正しております。

# 配当予想 ※期初予想から変更なし



## ■基本方針

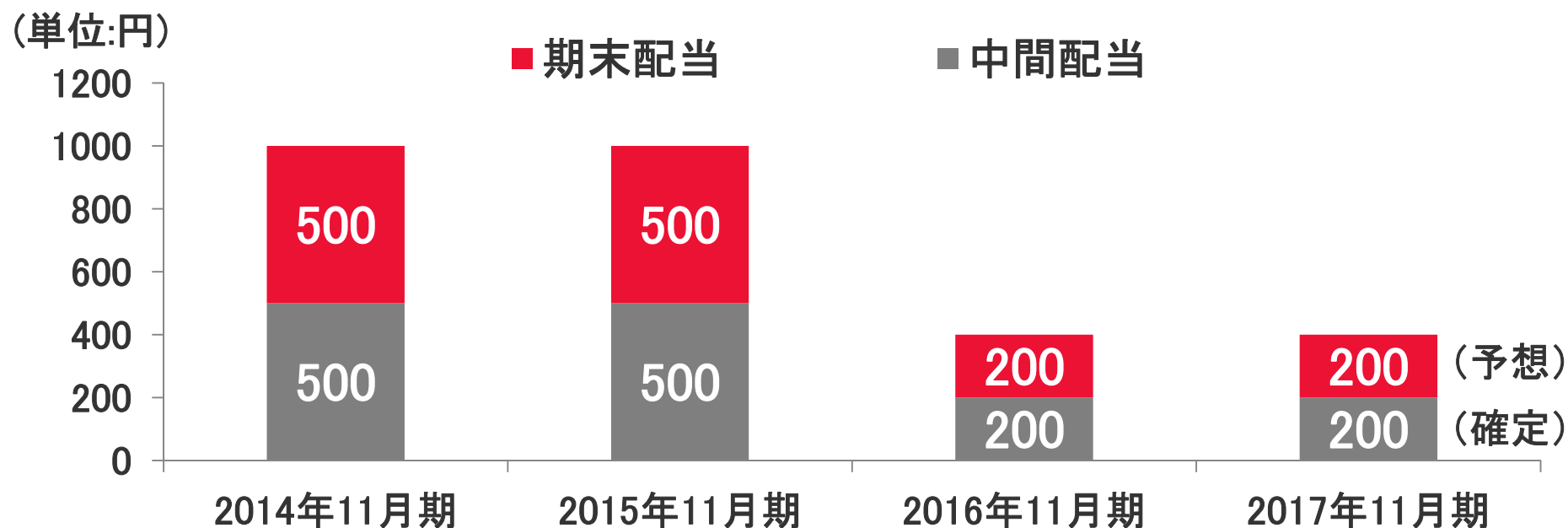
安定的な配当を行うことを念頭に置きつつ、業績等を勘案したうえで配当金額を決定

## ■1株当たり配当金額

2017年11月期 中間配当(確定) 2円

2017年11月期 期末配当(予想) 2円

【配当推移(中間・期末)※投資単位(100株)当たり】



(ご参考)

中期経営計画 / 会社概要等

## 【将来のあるべき姿】

バイクを売るならバイク王  バイクのことならバイク王

## 【基本戦略】

- ・当社ビジネスモデルの土台である車輛仕入の最大限の活用
- ・小売の販売チャネルを拡充

## お客様視点の事業展開

- ・エリアマーケティングの強化
- ・新たなサービスの開発・提供

## ビジョン実現に向けての取り組み

### 買取と小売の融合

- ・バイク王の総合力の活用
- ・人員のオールラウンドプレイヤー化
- ・店舗機能の見直し
- ・仕入から販売までの最適化

### 経営体制の強化

- ・人財育成の強化
- ・ガバナンスの強化
- ・営業指標等のモニタリング強化



|   |  |
|---|--|
| 会社名   | 株式会社バイク王 &カンパニー  |
| 本社所在地   | 〒108-0022<br>東京都港区海岸3-9-15<br>LOOP-X 13階                   |
| 事業内容  | バイクの購入から売却までを<br>トータルプロデュースする<br>流通サービス業                   |
| 設立  | 1998年9月(創業1994年9月)   |
| 資本金   | 590百万円(2016年11月末日現在)                                       |
| 売上高   | 16,996百万円(2016年11月期)                                       |
| 従業員数  | 727名(2016年11月末日現在)   |
| 役員<br>代表取締役<br>社長執行役員<br>取締役会長<br>取締役常務執行役員<br>取締役執行役員<br>取締役 常勤監査等委員<br>取締役 監査等委員(社外)<br>取締役 監査等委員(社外) | 石川 秋彦<br>加藤 義博<br>大谷 真樹<br>山縣 俊<br>産形 昭夫<br>山口 達郎<br>齊藤 友嘉 |

| 沿革    |                |   |
|-------|----------------|---|
| 1994年 | 9月             | 前身となるメジャーオート(有)を設立  |
| 1998年 | 9月             | (株)アイケイコーポレーションを設立<br>その後、グループ会社を順次統合   |
| 2002年 | 12月            | 「バイク王」として看板を備えた初のロードサイド<br>店舗を出店  |
| 2004年 | 2月             | バイク王のテレビCMの放映を開始  |
| 2005年 | 3月<br>6月<br>9月 | 独自の基幹システム「i-kiss」が本格稼働<br>ジャスダック証券取引所に上場<br>初の小売販売店を出店  |
| 2006年 | 3月<br>8月       | 駐車場事業を営む(株)パーク王を設立(2012年<br>当社に吸収合併)<br>東京証券取引所市場第二部に上場   |
| 2009年 | 8月             | バイク買取専門店「バイク王」100店舗を達成  |
| 2010年 | 12月            | 決算期の変更(8月⇒11月)  |
| 2011年 | 3月<br>4月       | (株)ユー・エス・エスおよび(株)ジャパンバイクオーク<br>ションとバイクオークション事業に関する業務・資<br>本提携を開始<br>「(株)ジャパンバイクオークション」の株式取得(当社<br>出資比率:30.0%)により、同社を関連会社化 |
| 2012年 | 9月             | 商号変更(旧社名:(株)アイケイコーポレーション)   |
| 2014年 | 2月             | 東京都港区に本店を移転   |
| 2016年 | 1月<br>11月      | ロゴマークを統一し刷新<br>(株)G-7ホールディングスと資本業務提携を締結   |
| 2017年 | 2月             | 監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ<br>移行   |

## ■全国に広がるバイク王 & カンパニーのビジネスネットワーク (2017.10.3現在)

◆本社

◆バイク王店舗 57店舗

◆インフォメーションセンター <さいたま>

◆第二インフォメーションセンター <秋田>

◆横浜物流センター

◆神戸物流センター

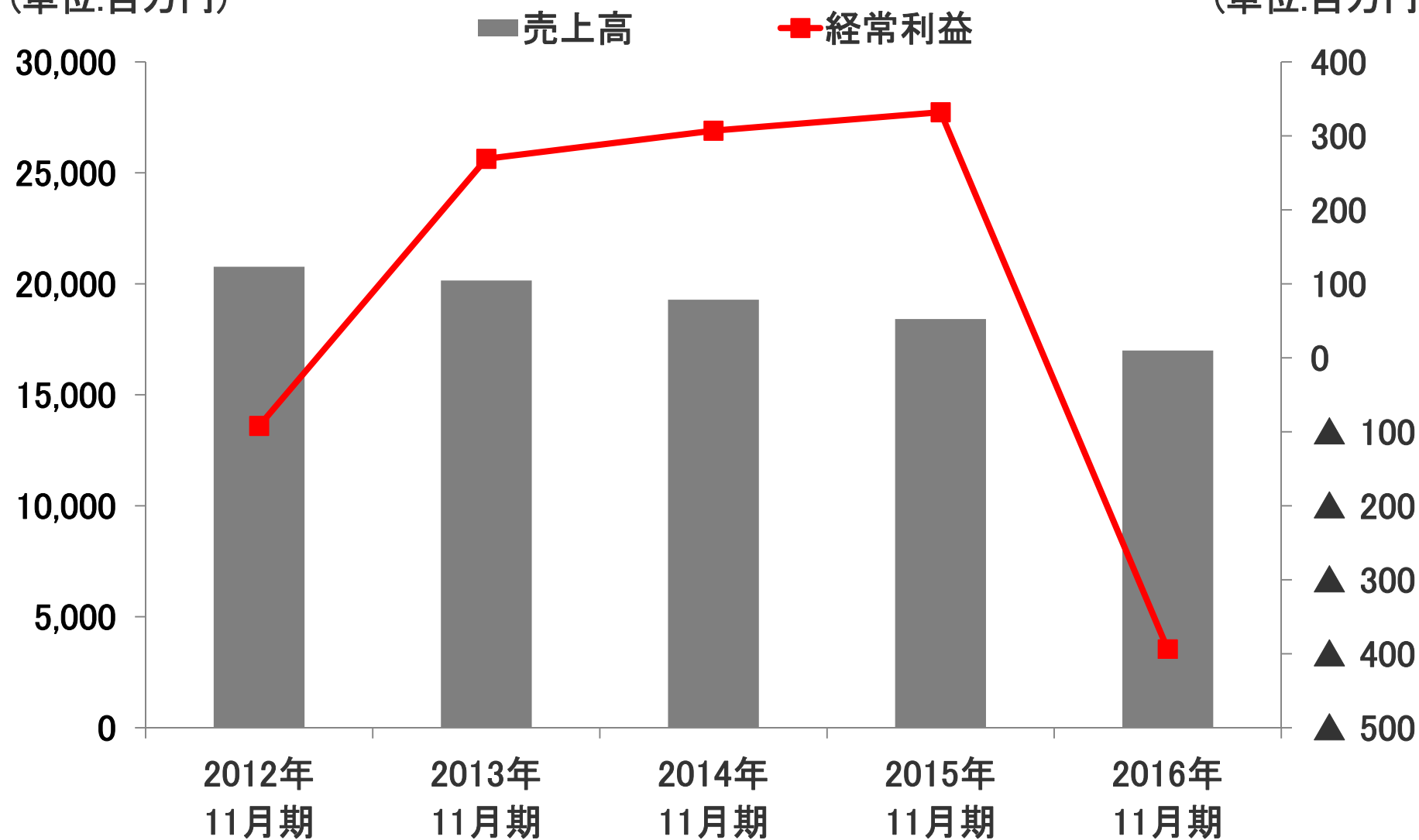
◆寝屋川物流センター



# 売上高 / 経常利益 推移

(単位:百万円)

(単位:百万円)



2017年2月24日開催の第19回定時株主総会の  
決議をもって監査等委員会設置会社に移行

## ■コーポレートガバナンスの強化

- ・社外取締役を2名選任
- ・取締役の報酬や指名に関する  
任意の諮問委員会を設置
- ・監査等委員でない取締役の  
業績連動型報酬制度の導入

# (株)G-7ホールディングスとの資本業務提携 概要



- 業務提携の目的 : 当社バイク小売事業と株式会社G-7ホールディングス(以下、G-7社)の子会社「株式会社G-7バイクワールド」の二輪車用品販売事業との融合による、新たなお客様の発掘
- 業務提携の内容 : (1)両社の保有資産を活用したサービス展開  
(2)二輪車に関する情報の共有および活用の推進  
(3)相互の人的交流
- 資本提携の内容 : 業務提携による上記の取り組みを推進し両社の関係を強固にするため、当社の自己株式15万株を第三者割当の方法により、G-7社に割り当て(これによるG-7社の当社株式の保有比率は0.98%)

## ■株式会社G-7ホールディングス 会社概要

|      |                            |
|------|----------------------------|
| 所在地  | 兵庫県神戸市須磨区弥栄台3丁目1-6         |
| 資本金  | 1,785百万円                   |
| 代表者  | 代表取締役社長 金田 達三              |
| 上場市場 | 東証1部(証券コード:7508)           |
| 連結事業 | オートボックス・車関連、業務スーパー・こだわり食品等 |

## ■株式会社G-7バイクワールド 会社概要

|      |  |
|------|--|
| 資本金  | 45百万円  |
| 代表者  | 代表取締役会長 奥本 恵一  |
| 事業内容 | ・バイクライフの総合専門店「バイクワールド(13店舗)」の経営<br>・中古バイク・パーツなどの輸出<br>・バイク用品のオンラインショップの運営(楽天市場店) |

# マーケット環境 概要①

■国内保有台数は、比較的価値の高い原付二種以上の保有台数は微増傾向、全体としては微減傾向 (単位:千台)

| 保有台数の推移 |                | 2011年  | 2012年  | 2013年  | 2014年  | 2015年  | 2016年  |
|---------|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 125cc以下 | 原付一種(～50cc)    | 7,154  | 6,899  | 6,661  | 6,438  | 6,188  | 5,899  |
|         | 原付二種(51～125cc) | 1,540  | 1,582  | 1,626  | 1,674  | 1,704  | 1,717  |
| 125cc超  | 軽二輪(126～250cc) | 1,975  | 1,959  | 1,969  | 1,980  | 1,978  | 1,970  |
|         | 小型二輪(251cc～)   | 1,535  | 1,542  | 1,566  | 1,595  | 1,611  | 1,628  |
| 合       | 計              | 12,205 | 11,985 | 11,823 | 11,688 | 11,482 | 11,215 |

(出所)一般社団法人日本自動車工業会/各年3月末日ベース

■125cc超の中古流通台数は4年ぶりに増加 (単位:千台)

| 中古流通台数の推移 |   | 2011年 | 2012年 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 |
|-----------|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 125cc以下   |   | -     | -     | -     | -     | -     | -     |
| 125cc超    |   | 541   | 687   | 670   | 660   | 630   | 677   |
| 合         | 計 | -     | -     | -     | -     | -     | -     |

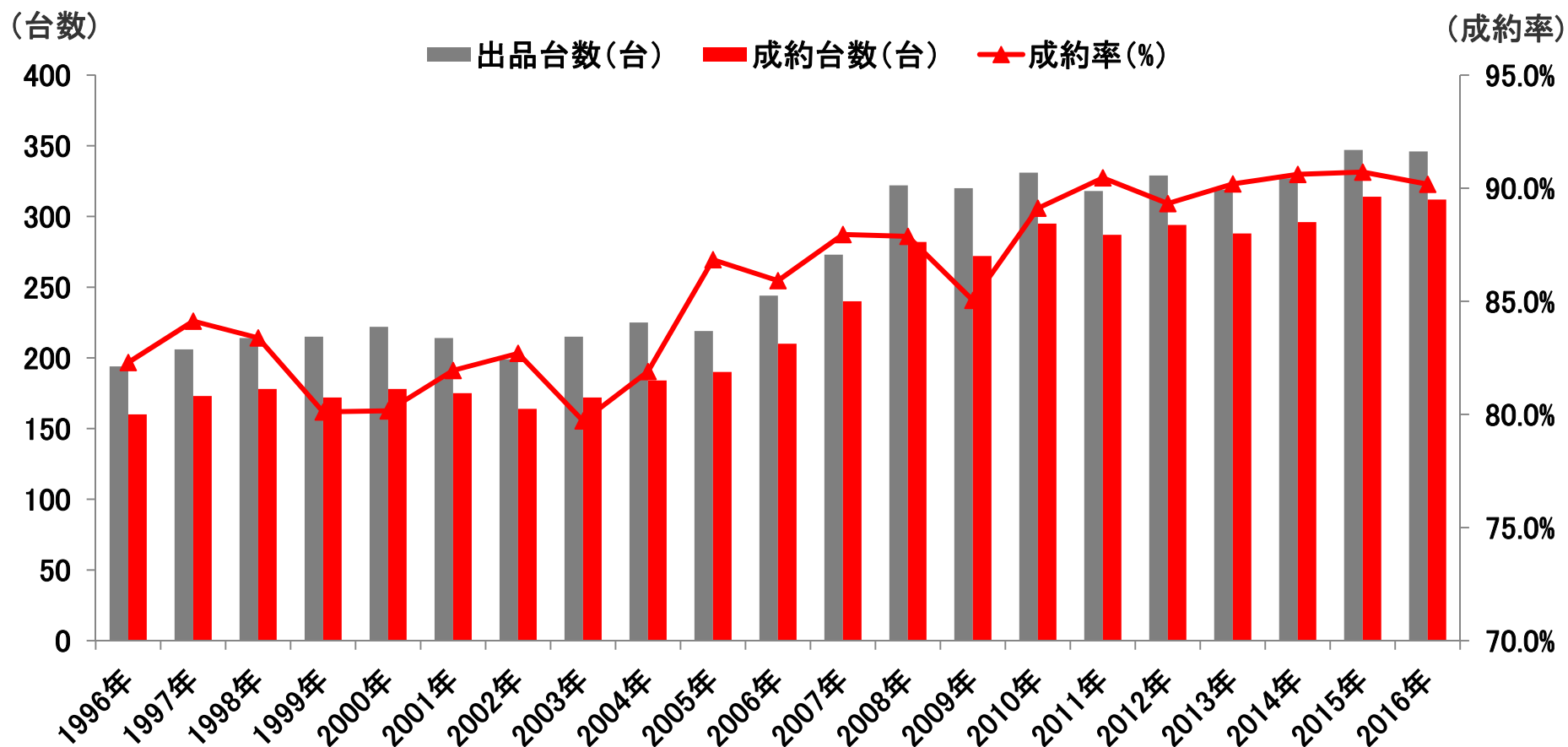
(出所)二輪車新聞※2012年より小型二輪の集計方法変更

■新車販売台数は原付二種以外が減少 (単位:千台)

| 新車販売(出荷)台数の推移 |                | 2011年 | 2012年 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 |
|---------------|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 125cc以下       | 原付一種(～50cc)    | 257   | 246   | 238   | 228   | 193   | 162   |
|               | 原付二種(51～125cc) | 95    | 90    | 100   | 96    | 94    | 101   |
| 125cc超        | 軽二輪(126～250cc) | 31    | 39    | 47    | 53    | 48    | 40    |
|               | 小型二輪(251cc～)   | 21    | 25    | 31    | 38    | 35    | 34    |
| 合             | 計              | 405   | 401   | 419   | 416   | 372   | 338   |

(出所)一般社団法人日本自動車工業会/暦年ベース

## ■ 当社の主要販売先であるバイクオークション市場の動向



(注) 主なオークションの統計データであり、オークネット社の実績は含まれておりません。

出典: 二輪車新聞

本資料は、当社をご理解いただくために作成したもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。

本資料の作成は、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害について、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績が言及または記述されている将来見通しとは異なる結果となることをご承知ください。

**【連絡先】コーポレートグループ 広報IR担当**

TEL: 03-6803-8855

<http://www.8190.co.jp/>